

えままならない状況下に置かれたウクライナの人々が、今どれほど、当たり前「日常」を切望していることか、想像するに難くありません。

これまで戦争にも、大きな天災にも遭ったことのない私にとって、ずっと私の目の前に、それこそ当たり前にあった。当たり前「日常」が「いつか突然に失われることがあるのかもしれない」なんてことは、あまりリアルに想像をすることさえもできません。それでもすっかり平和ボケしている私などは、ただただ漠然と「やっぱり平和が良いなあ」なんて呑気なことをつぶやきながらテレビ画面を眺めているだけでも確実に言えることは、仕事が忙しかろうが、家族がバラバラになっても虚しさを感じていようが、日本で日々平和に暮らしている私たちはとても恵まれている、そして幸せだということだ。

しかし昔の人は、平和の上に胡坐を

かいて安住している我々の私たちの呑気さを知ってか知らずか、皮肉タツプりにこんな苦言を呈しています。「好事魔多し（幸せな時に限って邪魔が入るものである）。「花に嵐のたよえもあるぞ（美しく咲いている花も突然の嵐によって散ってしまうことがある）」。

確かに、世の中良いことばかりが続く訳ではありません。「いつまでも若いままでいたい」と思っているけど、どんな歳はとるし、事業を成功させている社長だって「いつ経営が悪化してしまうのか分かったもんじゃない」と心の中で震えているのです。今自分が抱えている幸せがいつかは消えてなくなってしまうと考えると、恐ろしくて、そして虚しくて、やりきれない気持ちになるのですが、それが現実なのです。

でもご安心ください。昔の人の全員が全員ネガティブな皮肉屋ばかりだったかという、そういう訳ではないよ、うで、良いこともツライこともある人

の一生を、力強く前向きに乗り切ってやろうという気概を持った人だつてちやんといたのです。「泣いても一生、笑つても一生、ならば今生泣くまいぞ（坂本龍馬）」。あなたの職場にも一人くらいはいませんか？ いつもヘラヘラしているいつも上司に怒られている人。もしかするとその頼りないヘラヘラ君は、案外達観した人生の達人なのかもしれないよ。



Akira Saito

川橋 奈生 30歳  
士事 橋本 奈生  
務法 橋本 奈生  
学計 橋本 奈生  
法計 橋本 奈生  
学計 橋本 奈生  
法計 橋本 奈生

【近況】久しぶりに残っていた。お前（笑）。